

◆スケート部(フライング部) 取材の裏話◆ 取材に緊張してしまい、質問が飛んでしまった相手記者。すると樋口選手が「部活や大学はどんな感じなの？」と逆質問してくる。緊張が解け和やかな取材となりました。

ソフトテニス(女子) 王座準優勝(終面)

新聞の転売はおやめください 年間購読のお申し込みは03-3233-3760 読み終えた新聞はお持ち帰りください

ミラノ・コルティナ アクセル全開で五輪へ

新葉

明大OGが挑むラストシーズン

五輪への道のり

日本女子に与えられた出場枠は3枠で、秋頃から始まるGPシリーズや年末の全日本選手権(全日本)などの成績で選考される。樋口は第4戦のNHK杯、第5戦のスケートアメリカに出場予定。集大成となる全日本では坂本花織(シスメックス)や千葉百音(木下グループ)など日本屈指の選手たちとの熱戦が予想される。

休養期間を経て変化した思い

スケートは「心の支え」

樋口新葉選手(右5商卒・現ノエビア)の集大成となるシーズンが幕を開けた。2018年の世界選手権で銀メダル、22年には北京五輪代表で団体銀メダルと、日本スケート界の最前線に立ってきた。昨シーズンは、世界選手権代表として26年2月に行われるミラノ・コルティナ五輪(ミラノ五輪)の日本代表出場枠を最大の3枠獲得に貢献。現役最後のシーズンで、再び五輪の舞台を目指す。

再び世界の舞台へ

復帰した23~24年シーズンから、国際大会のGPシリーズや全日本選手権で5位と存在感を示すと、昨シーズンは全日本で3位、世界選手権で6位と世界の第一線に復帰してきた。特に世界選手権は「今まで出てきた試合の中で一番自分の納得がいった試合だった。失敗があるけれども、これで良かったかなと思える試合は初めてだった。北京五輪の時と感覚が違ってきた。北京五輪からの3年は自分の人生における大事なポイントが詰まった期間だった。その期間の思いを演技に出すことができた。これまでの

武器は表現力

『My Way』で等身大のスケート人生を

競技人生の悩みや迷い、葛藤があつてこそスケートインキングだった。樋口は、スケートインキングという考えに変化した。離れたところから見たスケートへの新たな価値観が再び情熱をかき立てる。この道を進むことも、最終的にスケートに戻りたい。その中で自分ができることを考えた時に、まずは競技に一回戻って、やり残していることをしっかりと納得のいく状態で終わらせてから次のステップに進もうと思った。2年ぶりに氷上に戻ることを決意した。

北京五輪からの軌跡

21~22 22~23 23~24 24~25 25~26

3年時五輪内定

引退を発表した今、彼女に残された時間は多くない。毎試合違う表現、モチベーションで滑っている。だから全ての試合で違う作品になる」という彼女の言葉が胸に響く。この言葉を聞いた時、一つ一つの言葉を聞いた作品だと強く感じた。フィギュアスケートは選手が多岐にわたる。同じプログラムを滑る特殊な競技だが、なぜ魅力を感じるのか。おそらく答えは、この言葉にある。全く同じ演技が込められているからこそ、どんなプログラムも唯一無二になる。最後まで生まれ続けるその作品を、一瞬たりとも見逃したくないと心から思った。

インタビュー拡大版はこちら

樋口新葉選手

(右5商卒・現ノエビア)の集大成となるシーズンが幕を開けた。2018年の世界選手権で銀メダル、22年には北京五輪代表で団体銀メダルと、日本スケート界の最前線に立ってきた。昨シーズンは、世界選手権代表として26年2月に行われるミラノ・コルティナ五輪(ミラノ五輪)の日本代表出場枠を最大の3枠獲得に貢献。現役最後のシーズンで、再び五輪の舞台を目指す。

天才少女の光と影

2014年、中学2年時にジュニア部門から推薦出場した全日本代表で団体銀メダルと、日本スケート界の最前線に立ってきた。昨シーズンは、世界選手権代表として26年2月に行われるミラノ・コルティナ五輪(ミラノ五輪)の日本代表出場枠を最大の3枠獲得に貢献。現役最後のシーズンで、再び五輪の舞台を目指す。

再び世界の舞台へ

復帰した23~24年シーズンから、国際大会のGPシリーズや全日本選手権で5位と存在感を示すと、昨シーズンは全日本で3位、世界選手権で6位と世界の第一線に復帰してきた。特に世界選手権は「今まで出てきた試合の中で一番自分の納得がいった試合だった。失敗があるけれども、これで良かったかなと思える試合は初めてだった。北京五輪の時と感覚が違ってきた。北京五輪からの3年は自分の人生における大事なポイントが詰まった期間だった。その期間の思いを演技に出すことができた。これまでの

武器は表現力

『My Way』で等身大のスケート人生を

競技人生の悩みや迷い、葛藤があつてこそスケートインキングだった。樋口は、スケートインキングという考えに変化した。離れたところから見たスケートへの新たな価値観が再び情熱をかき立てる。この道を進むことも、最終的にスケートに戻りたい。その中で自分ができることを考えた時に、まずは競技に一回戻って、やり残していることをしっかりと納得のいく状態で終わらせてから次のステップに進もうと思った。2年ぶりに氷上に戻ることを決意した。

北京五輪からの軌跡

21~22 22~23 23~24 24~25 25~26

3年時五輪内定

引退を発表した今、彼女に残された時間は多くない。毎試合違う表現、モチベーションで滑っている。だから全ての試合で違う作品になる」という彼女の言葉が胸に響く。この言葉を聞いた時、一つ一つの言葉を聞いた作品だと強く感じた。フィギュアスケートは選手が多岐にわたる。同じプログラムを滑る特殊な競技だが、なぜ魅力を感じるのか。おそらく答えは、この言葉にある。全く同じ演技が込められているからこそ、どんなプログラムも唯一無二になる。最後まで生まれ続けるその作品を、一瞬たりとも見逃したくないと心から思った。

インタビュー拡大版はこちら

樋口新葉選手

(右5商卒・現ノエビア)の集大成となるシーズンが幕を開けた。2018年の世界選手権で銀メダル、22年には北京五輪代表で団体銀メダルと、日本スケート界の最前線に立ってきた。昨シーズンは、世界選手権代表として26年2月に行われるミラノ・コルティナ五輪(ミラノ五輪)の日本代表出場枠を最大の3枠獲得に貢献。現役最後のシーズンで、再び五輪の舞台を目指す。

天才少女の光と影

2014年、中学2年時にジュニア部門から推薦出場した全日本代表で団体銀メダルと、日本スケート界の最前線に立ってきた。昨シーズンは、世界選手権代表として26年2月に行われるミラノ・コルティナ五輪(ミラノ五輪)の日本代表出場枠を最大の3枠獲得に貢献。現役最後のシーズンで、再び五輪の舞台を目指す。

再び世界の舞台へ

復帰した23~24年シーズンから、国際大会のGPシリーズや全日本選手権で5位と存在感を示すと、昨シーズンは全日本で3位、世界選手権で6位と世界の第一線に復帰してきた。特に世界選手権は「今まで出てきた試合の中で一番自分の納得がいった試合だった。失敗があるけれども、これで良かったかなと思える試合は初めてだった。北京五輪の時と感覚が違ってきた。北京五輪からの3年は自分の人生における大事なポイントが詰まった期間だった。その期間の思いを演技に出すことができた。これまでの

武器は表現力

『My Way』で等身大のスケート人生を

競技人生の悩みや迷い、葛藤があつてこそスケートインキングだった。樋口は、スケートインキングという考えに変化した。離れたところから見たスケートへの新たな価値観が再び情熱をかき立てる。この道を進むことも、最終的にスケートに戻りたい。その中で自分ができることを考えた時に、まずは競技に一回戻って、やり残していることをしっかりと納得のいく状態で終わらせてから次のステップに進もうと思った。2年ぶりに氷上に戻ることを決意した。

北京五輪からの軌跡

21~22 22~23 23~24 24~25 25~26

3年時五輪内定

引退を発表した今、彼女に残された時間は多くない。毎試合違う表現、モチベーションで滑っている。だから全ての試合で違う作品になる」という彼女の言葉が胸に響く。この言葉を聞いた時、一つ一つの言葉を聞いた作品だと強く感じた。フィギュアスケートは選手が多岐にわたる。同じプログラムを滑る特殊な競技だが、なぜ魅力を感じるのか。おそらく答えは、この言葉にある。全く同じ演技が込められているからこそ、どんなプログラムも唯一無二になる。最後まで生まれ続けるその作品を、一瞬たりとも見逃したくないと心から思った。

インタビュー拡大版はこちら

樋口新葉選手

(右5商卒・現ノエビア)の集大成となるシーズンが幕を開けた。2018年の世界選手権で銀メダル、22年には北京五輪代表で団体銀メダルと、日本スケート界の最前線に立ってきた。昨シーズンは、世界選手権代表として26年2月に行われるミラノ・コルティナ五輪(ミラノ五輪)の日本代表出場枠を最大の3枠獲得に貢献。現役最後のシーズンで、再び五輪の舞台を目指す。

天才少女の光と影

2014年、中学2年時にジュニア部門から推薦出場した全日本代表で団体銀メダルと、日本スケート界の最前線に立ってきた。昨シーズンは、世界選手権代表として26年2月に行われるミラノ・コルティナ五輪(ミラノ五輪)の日本代表出場枠を最大の3枠獲得に貢献。現役最後のシーズンで、再び五輪の舞台を目指す。

再び世界の舞台へ

復帰した23~24年シーズンから、国際大会のGPシリーズや全日本選手権で5位と存在感を示すと、昨シーズンは全日本で3位、世界選手権で6位と世界の第一線に復帰してきた。特に世界選手権は「今まで出てきた試合の中で一番自分の納得がいった試合だった。失敗があるけれども、これで良かったかなと思える試合は初めてだった。北京五輪の時と感覚が違ってきた。北京五輪からの3年は自分の人生における大事なポイントが詰まった期間だった。その期間の思いを演技に出すことができた。これまでの

武器は表現力

『My Way』で等身大のスケート人生を

競技人生の悩みや迷い、葛藤があつてこそスケートインキングだった。樋口は、スケートインキングという考えに変化した。離れたところから見たスケートへの新たな価値観が再び情熱をかき立てる。この道を進むことも、最終的にスケートに戻りたい。その中で自分ができることを考えた時に、まずは競技に一回戻って、やり残していることをしっかりと納得のいく状態で終わらせてから次のステップに進もうと思った。2年ぶりに氷上に戻ることを決意した。

北京五輪からの軌跡

21~22 22~23 23~24 24~25 25~26

3年時五輪内定

引退を発表した今、彼女に残された時間は多くない。毎試合違う表現、モチベーションで滑っている。だから全ての試合で違う作品になる」という彼女の言葉が胸に響く。この言葉を聞いた時、一つ一つの言葉を聞いた作品だと強く感じた。フィギュアスケートは選手が多岐にわたる。同じプログラムを滑る特殊な競技だが、なぜ魅力を感じるのか。おそらく答えは、この言葉にある。全く同じ演技が込められているからこそ、どんなプログラムも唯一無二になる。最後まで生まれ続けるその作品を、一瞬たりとも見逃したくないと心から思った。

インタビュー拡大版はこちら

明大スポーツ

7月17日 木曜日 明大スポーツ新聞 創刊 1953年
令和7年(2025年) 編集人 高橋 未羽
東京都千代田区神田駿河台1の1
〒101-8301 TEL/FAX 03(3233)3760
http://meisupo.net/
第547号

香うどん丸香

新葉の目

明大スケート部フライング部門の現役選手たちへのインタビューを掲載しました!

住吉りん主将(商4)

佐藤 政経(政経4)

三浦佳生(政経2)

奥野友莉菜(商1)

神宮リノ木村也

高校生の時と滑りがすごく変わった!感情を乗せて滑っているのが伝わる!

ほぼ毎日一緒に練習!すごく真面目な子!抱え込みすぎないで!

25年、4年連続で選手権出場!

スケートに対して深いところまで一つ一つ考えている選手!すごく勉強になる

大会名	順位	総合得点
GPアメリカ	1位	196.93
GPフランス	2位	206.08
GPファイナル	4位	195.96
全日本	3位	206.40
四大洲選手権	5位	195.16
世界選手権	6位	204.58

24~25 25~26

24~25 シーズンSP『デュエーション 砂の惑星』

大会名	順位	総合得点
GPフランス	5位	190.02
NHK杯	9位	165.69
全日本	12位	180.67

約20年の競技生活 最終章へ

ドリームオンアイスで今季のSPを初披露

今季のSP「ショート・ワイルド」に樋口は「My Way」を選曲。彼女にとって、約20年の競技人生を締めくくるとともに、自分なりのスケートに対する考えを表現した。自分自身が戦える姿、これまでに経験してきたこと、そして今後の人生について、自分なりの考えを表現した。自分自身が戦える姿、これまでに経験してきたこと、そして今後の人生について、自分なりの考えを表現した。



e grand

その家に、次の暮らしを。

私たちは中古住宅再生事業を通して、社会と住まいの未来をつないでいます

中古マンションや戸建にリフォーム・リノベーションを施し、付加価値を向上させた中古再生住宅を販売。良質な住まいを提供し続けることで社会に貢献します。

株式会社会イーグランド(e grand Co.,Ltd) 〒101-0053 東京都千代田区神田美土代町1番地

会社のことをもっと知る <https://e-grand.co.jp>

新卒採用 Instagram https://www.instagram.com/egrاند_saiyo/

証券コード: 3294

JPX 東証1部